

# 東日本ユニオンにいがた

http://niigatachihon.yukigesho.com/

JR東日本労働組合新潟地方本部

2021年8月10日発行

第2号(通巻第188号)

発行者: 星山 圭 編集者: 教育・広報部



## JR東日本労働組合新潟地方本部 第10回定期大会

# 全組合員参加の組織力で 東日本ユニオンをさらに 強化・拡大しよう!

### 職場からの運動で安全で働きやすい東日本と 組合員・家族の生活の安心と安定をいこう

#### 星山執行委員長 あいさつ

新潟地方本部は7月30日、新潟市の新津地域交流センターにおいて第10回定期大会を開催しました。  
新型コロナウイルスが再び感染拡大傾向にあることを十分に認識し、代議員と地本役員のみでの招集として、会場入り口での検温・手指の消毒実施や飛沫防止の亚克力板の設置、会場内の適宜換気や使用の都度マイクを消毒するなど、感染拡大防止に努めた中で開催しました。

新型コロナウイルスの終息が見えない中であるが感染対策をしっかりと行い開催する。みんなで顔を合わせる機会が少ない中で、時間は限られるが交流もして頂きたい。

安全について、米坂線でのレールスターとの接触事故に関して7月26日に申15号を提出した。

黒字化や環境変化に対応するための経営施策の中で、安全が言葉だけになっていないか、労働環境が改善されていないかチェック機能を発揮しよう。自然環境も変化し大雪、大雨、酷暑と続くが、レアケースという言葉は許さない。安全に妥協はしない。

経営状況に危機感を持たせる周知が会社から意識に行われてきた。業務用タブレット使用時の暖味な労働時間管理、出勤準備中の訓練出席の業務指示、経費支出に疑問の声が出る企業活動など、「赤字

だから仕方がない」で見逃される風潮の中で労働組合の役割が大きくなっている。

2021春闘では、中央本部の3本柱、春闘アンケートに取り組んだ。全組合員の参加にこだわった。賃上げ交渉での妥結でたまたかいを止めず、アンケートに基づいた問題の解決に

来賓として、中央本部の生田書記長にご挨拶をいただきました。



### 13名の代議員が職場での取り組みを発言

大会議長には新潟支部の青池代議員を選出し、スムーズな議事進行により成功裏に終了することができました。  
質疑では、13名の代議員から発言がありました。  
「新たなジョブローテーション検証の取り組み」  
「2021年度夏季手当のたたかいかい」  
「可動ブラケットといなほ号との衝突について」  
「現業機関における業務執行体制の見直し」  
「組織加入促進の取り組み」  
「現業機関における柔軟な働き方について」  
「なご、職場からの取り組みが

に、この1年運動を作り出していききたい。  
課題別共闘や大同団結など、他の労働組合との関係も重要な課題だ。  
組織拡大を目指して行くが、未加入者には潜在的に労働組合不要論が存在している。  
私たち自身はどうか。労働組合必要論なくして組織の外に必要論を打ち出していくことは難しいのではないかと。そのような相互議論も必要だ。  
2021年度年末手当の取り組みは、会社に真正面から要求し実現を目指して行く。組合員の利益を守り、奮闘した分を取り戻すために中央本部が先頭に立つて行く。

熱く語られました。  
採決では「2021年度運動方針(案)」「2021年度予算(案)」など全ての議案を満場一致で可決、新たな地本執行体制を確立し、1年間の取り組みのスタートを切りました。

#### ◆粉川書記長 集約答弁

会社施策や起こる問題に職場から向き合ってきたことを確認できた大会だった。赤字下でスピードアップをした変革2027に管理者もついて行けずにいる。組合員が日々感じていた問題意識に常に気を向けていこう。

赤字意識に覆われていないか。労働組合として黒字化を目指すことが目的ではなく組合員・家族の幸せのための手段だ。労働者の目で現場を見ていこう。  
春闘アンケートを夏季手当につなげ、申し入れを提出して団体交渉を行ってきた。西口連絡所の問題に更に広がっている。  
自分自身の言葉で「労働組合が必要」と語れるようになる。なぜ自分が東日本ユニオンに加入しているのか確定させることが、ネガティブを跳ね返す力、組織拡大の原動力となる。語り合うのは東日本ユニオンにいま何をすべきかを考えていこう。

### 東日本ユニオンの 明るい未来を語ろう!

現業機関における柔軟

今、JRの姿を描いた上で、経営側は施策の提案、実施を積み重ねて今日を作っている。  
私たちは本部定期大会で確認したように「東日本ユニオンの明るい未来を語ろう!」をスローガン